

牛久：学校周辺に見る自然

第26号 牛久自然観察の森

2018年7月29日発行

＜ 樹液に集まる虫たち ～パート3＞

昨年6/29、今年の5/17に続いて、7/27サマースクールの帰りに牛久自然観察の森に寄り、同じコナラの木で樹液じゅえきに集まる昆虫こんちゅうたちを観察かんさつしました。



コナラじんこう(や人工)の樹液じゅえきに集まるカブトムシ(おす・めす)とカナブン、アカボシゴマダラとオオムラサキ。



コナラの樹液をなめるカブトムシのおす(左)とめす(中)、カナブン(右2枚)。

一番数が多かったのは「甲虫(こうちゅう)」のなかま、カブトムシとカナブン。カブトムシは、近よってくる他のカブトムシやカナブンなどを足で追いはらっていました。それでも近よるものには、よくテレビでやるように角で投げ飛ばしたりもします。梅雨時に多く見られたスズメバチやサトキマダラヒカゲは、この日は見かけませんでした。気になって調べてみたら、サトキマダラヒカゲは初夏に羽化し産卵されたものが7月には幼虫やさなぎになっていて、成虫はほとんど見られないようです。



チョウのなかまでは、アカボシゴマダラとオオムラサキ。オオムラサキのおすははねを開くと青むらさきに輝いて美しく、また大きいので国蝶(こくちょう)に選ばれたのもわかる気がしますが、開発などで少なくなっています。アカボシゴマダラは同じタテハチョウ科できれいですが、こちらは中国大陸から人が持ちこんだものが急速に分布を広げており、またオオムラサキと同じエノキの葉を幼虫が食べて育つので問題となっています。



コナラの樹液を吸うアカボシゴマダラ(上)と、国蝶 オオムラサキのおす(下2枚)。



他には、ハエのなかま2種とアブが見られました。同じ場所の同じ木でも、季節によって違いますね。【理科支援員：宮内】

コナラの樹液をなめるアブ(左)とハエ(右)。